青森勤労者山岳会　　2011 年　7 月　8 日　提出　（提出者　M.MINAMI・T.SAITOU）

個人　山行報告	山　名	牛形山・兎森山	地 域	岩手県北上市
ル ー ト	夏油温泉⇔牛形山1339.8m　　夏油温泉スキー場⇔兎森山1054.3m			
山行期間	2011 年　7 月　2 日　～　2011 年　7 月　3 日　（　2　日間　）			
参加者名	CL:Y.NARA　他６名 合計7名			

登山口までのｱﾌﾟﾛｰﾁ、登山口の様子

牛形山：東北道青森IC・秋田道北上西IC・県道３７号線を入畑ダムを通り　細いカーブ多い舗装路を登山口夏油温泉へ。駐車場広く　トイレあり、東屋裏に案内板、登山届箱、牛形山・経塚山登山口標識あり。

コースタイム　**7/2　牛形山**　06：17青森IC･･･津軽P・・・岩手山P・・・09：19夏油温泉

09:48登山口→09：58牛形山へ4ｋ→10：11牛形・経塚分岐→10：46牛形山へ2.9ｋ→11：18視界ひらけ左手に経塚山→12：40水場→12：45牛形山・鷲ヶ森山分岐→13：11山頂13：39→14：01牛・鷲分岐→16：05天狗の岩案内板→16：17夏油温泉　　天気：晴れ一時曇り

山行記録　2010/10/10 虎毛山へ干支還暦登山時　Y.Nさん「来年還暦誕生日に干支山に登りたい」とつぶやいたのを小耳に挟み、参加するｺﾞ！と。T.Sさんが山を選定。ただひとつ問題が。この時期　国内外へ遠征する人や法事等で参加メンバー少なく。ドライバーM.K・T.Sさんの優しく大きな協力があって一路岩手へ　曇りの青森IC出発。登山口・宿の夏油温泉に着いた。お試し湯治のM.Kさんは宿に。距離の割りに時間がかかりそうできついのかな？等と会話も弾み　ギンリョウソウ多く見ながら山道歩く。展望なく大木ブナ林遅くに雪が融けた辺りにはまだユキザサ等の花もあり　イチヨウラン・クモキリソウ・蕾のランを見ながら足元は木の根で道もだんだん細くなる。1時間だけ歩くと木村さんが追いかけてきて　「それでは皆さん行ってらっしゃい！」と　引き返して行った。倒木にキノコがあり「ヒラタケだ！下山に採って夕食の汁物にしてもらおう！」（宿の人「知らないキノコだ。」とか。食せず。）ウコンウツギも清楚に咲き　短時間の休憩を数回繰り返し　水分補給怠り無くも　湿度気温高く無風に皆バテ気味。獣の臭いがしたとか、崖の辺縁や、木々の根を頼りにここで怪我しないようにと注意しながら緩斜面を歩く。展望開けた笹原を進むと急稜な右下がりのガレ場が、幸い距離短く太いロープがある。右手遠方に山連なる、明日の兎森山は？どうも陰になって見えないようだ。ノウゴウイチゴ・ミヤマキンバイ盛りの花々。キレイ。噂をしていたら水場の手前でたった1輪のキヌガサソウ、菊池さんが見つけてくれた。牛形山・鷲ヶ森山分岐小湿原にミヤマカラマツ・モミジカラマツ・コバイケイソウの白花トリオとリュウキンカ黄色花　木道挟み　色分けして咲いている。山頂まで0.5ｋ、土砂崩れ注意の看板あり。細いロープを頼りに尾根に上る。息も上がる。足元にアカモノゴゼンタチバナ、環境のせいか高木はなく背の高さにウラジロヨウラク・サラサドウダン色よく咲き誇り　マルバシモツケは間もなく開花か、スノキはもう実になろうと。花を見ながら前方に目指す牛形山が

間もなく。山頂はあまり広くはないが360度パノラマ。生憎所々雲がかかり山同定できず残念。二等三角点の土台部分も出ていて　山頂土砂がかなり流れたのか。先客の女性にシャッターを。皆頑張った後の満足の笑顔がステキ。下山も和気藹々足元注意す。ハードな山だった。M.Kさん「東北の山は渋いのだ！」明日はどうやら雨模様。ロウソク6本 誕生日祝前夜祭盛り上がり　楽しい時を一緒した。夏油温泉鬼剣舞かがり火公演もお祝いに花を添えてくれた。木村・菊池・辻村さんが見てきて様子を伝えてくれたが　あとの人達は･･･飲んでいた。　M.MINAMI記

兎ちゃんポーズ

登山口までのｱﾌﾟﾛｰﾁ、登山口の様子　　7/3　兎森山

夏油温泉から県道37号線を約5km余戻り　左手のゴンドラ看板を左折し約1km余を行くと　11/9まで東日本大震災のためスキー場営業中止中、バリケードが築かれている。その手前に駐車する。

コースタイム　7/3　兎森山　　７：２６スキー場入口道路二股→７：５６兎森山トレッキングコース入口→８：１５スキー場内コースに出る→８：５８リフト山頂駅→第二ゴンドラ山頂駅Uターン９：１４→９：３２兎森山入口→９：４６兎森山山頂９：５６→１０：１１兎森山入口→１０：３４スキー場から抜ける→１０：４６トレッキングコース入口→１１：０５着スキー場入口道路二股　　天気：曇のち雨のち晴

山行記録　　朝、夏油温泉の部屋にて準備をしている最中に雨がこぼれ出してきた。当初、兎森山～横岳～丸子峠への縦走の予定をスキー場からの往復へと変更を決める。M.Kさんは肩の故障にて大事をとって見送りと決めた模様です。スキー場内の道路二股手前にてバリケードが築かれているので、ここから登山の始まりである。右側の舗装道路を進み、砂利道の所にゲートに着く。両側に金属製のパイプが数本立ててある。太っている人は通過できない関門。？すぐ先左側に登山道の入り口がある。そこは小さいながらブナの木の混生林である。勾配も緩やかで歩きやすい。ほどなく、スキー場のコースの中に出た。丸太の階段が山上に続いていて

その先が霧のために何も見えない状態。急斜面の草原をただひたすら登り足元の小さなノウゴウイチゴのついばみが一時の至福を感じる。稜線に近くなると勾配も緩やかになり、リフトの山頂駅に到着する。兎森への入口を探すために次のゴンドラ山頂駅の方に進む。なかなか見つからないのか、先に進んだ先頭集団が戻ってきた。さっきの怪しげな所ではないかと、少し戻って下がってみる。ここでまた、雨が強くなりだしたので雨具を装着する。地形図を見ても破線記入がないので、ガイドマップをよ～く見てみると山頂駅どうしの中間地点から入っている。ほどなく入口を発見するが、先頭集団は先に進んで行ってしまっていたので、しばし待つことに。案内板や目印になる物が無いので、ピンクのテープを木の枝に付けておいた。全員集合して狭い登山道に吸い込まれていく。伸びたタケノコなどもあり、人跡が薄いようである。ひと登りで山頂到着。　**!!　とりあえず、うさぎ年の人、７月生まれの人、万歳…!。**

花束は
ハクサン

山頂からは岩手山、秋田駒、和賀山塊、夏油三山などの展望、まったく無し。記念撮影をし、ケーキを雨の中食べ合う。足元の谷からは雲が湧き出て、急峻な稜線と絡み合う姿が見られる。これは、白神山地のなだらかな稜線とは違い、力強くも感じる。最後にシャクナゲの花の中にうずもれ、写真を撮影してから下山にかかる。スキー場の急斜面を下りている途中霧が徐々に晴れだしてきて、道をはさんで対峙している立派な三角錘の山が立ちはだかって見えている。オガラ森山という名前だそうな！。濡れ鼠になっても、山頂を踏めたのを良しとしながらも、全員で登れなかったのを残念とした登山でした。また、次の干支の山に期待したい。 T.SAITOU記